

## 学校経営推進費 評価報告書（最終）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実 生徒の希望する進路の実現
評価指標	①授業アンケートにおける生徒の授業満足度の向上 ②希望進路実現率の向上 ③難関私立大学進学者数の増加
計画名	交野21世紀プロジェクト

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の育成</p> <p>(1) 教科指導を充実させ、学力を向上させる。</p> <p>ア 生徒を鍛え、伸ばす授業をめざし、交野21委員会を核にして「授業力向上に向けての研修会」を実施し、授業研究を進める。</p> <p>イ 学習に向かう意識を向上させ、家庭学習時間を増加させる。</p> <p>(2) 進路指導を充実させ、チャレンジ精神をもって進学・就職に取り組んでいく姿勢を育成する。</p> <p>ア 3年間を見通した進路指導計画を確立し、学力生活実態調査等を活用して、時期を捉えた進路指導に努める。</p> <p>イ 進路選択に対する意欲を喚起するために、様々な機会を設定し、その内容の充実を図る。</p> <p>(3) 文・理ともにコースの教育内容の一層の充実を図る。</p> <p>ア 「英語専門コース」では、英語でのコミュニケーション能力を一層向上させ、実践的で総合的な英語力を身に付けさせる。</p> <p>イ 「理数専門コース」では、基礎・基本の学習及び観察・実験等を通して、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせる。</p> <p>ウ 「学芸コース」では、興味・関心や進路に応じた様々な選択科目を設定し、個々の進路実現を図る。</p>
事業目標	・ICTを活用した授業を全校的に実施することによって組織的に授業の質を高め、学力を向上させる。
整備した 設備・物品	液晶プロジェクター及び設置に必要な部材等 29セット タブレット型パソコン7台
取組みの 主担・実施者	主 担：校長を総括責任者とする「交野21委員会」（指導教諭、首席、校長任命の教諭10名） 実施者：全教職員
本年度の 取組内容	<p>(1学期) ・次年度開始に向けてビブリオバトルに関する研究 ・総合的な学習の時間を有効利用するためのカリキュラム研究 ・各教科で、ICTを活用した授業及びアクティブ・ラーニングの実践について情報交換（毎月） ・各教員が、教室に設置したプロジェクターを使用して、ICT活用授業を実施。</p> <p>(2学期) ・次年度開始に向けてビブリオバトルに関して具体的方法決定 ・総合的な学習の時間を有効利用するためのカリキュラム決定 ・全教員が、ICTを活用した授業またはアクティブ・ラーニングの実践のいずれかを行い、各教科ごとに協議する取組みを実施、まとめを全教員で共有 ・生徒に対して、アンケートを実施</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>①授業アンケートにおける生徒の授業満足度 80%以上</p> <p>②希望進路実現率の向上 3年進級時進路希望の実現率 75%以上</p> <p>③難関私立大学進学者数の増加 関関同立産近甲龍・関西外大 進学者数70人以上</p>
自己評価	<p>①授業アンケートにおける生徒の授業満足度 76.7% (△)</p> <p>②希望進路実現率の向上 3年進級時進路希望の実現率 73% (△)</p> <p>③難関私立大学進学者数の増加 関関同立産近甲龍・関西外大 進学者数65人 (△)</p> <p>①について</p> <p>・数字の上では目標の80%には達していない。しかしながら昨年度の72%から大幅に伸びている。</p> <p>・プロジェクターを教室に運び込んで使用していた一昨年度までと比べて、パソコン等とプロジェクターの接続等の授業準備が格段に楽になり、ICTを使用して授業を行う教員が増加した。</p> <p>・これまで全く使用していなかった教員もICT機器を使用して授業を行い、効果のあることを実感した。</p> <p>・地歴公民、数学、理科は映像画像を映す、国語や英語は原文を映す、体育、芸術、家庭は実技を記録して観察したり模範実技を映したりする、というように教科別の特徴があり、生徒アンケートでは約60%の生徒が「ICT機器を活用した授業で、授業内容に関心をもつことができ、理解を深めることができた」と回答しており、それぞれが効果を生んでいると思われる。</p> <p>②について</p> <p>・昨年度は目標72%で、結果が73%。本年も結果が73%と減少はしなかったものの目標には達しなかった。成績的にかなり背伸びをして受けようとした生徒が多かったと思う。</p> <p>③について</p> <p>・目標の70人には達していないものの1年目の44人から7人増加した2年目の51人からまた増加し、3/19現在で65人となっている。そのうえ、公立大学にも2人合格している。</p>
事業のまとめ	<p>事業目標であった「ICTを活用した授業改善」を強力に推し進め、「見てわかる授業」「板書時間の削減」に取り組むことで授業の効率化を図れた。各教室にプロジェクターが設置されたことにより視覚に訴える授業ができるようになった。その結果、生徒の授業に対する満足度評価も初年度と2年目が72%と設置されていない平成26年度の71%より上がっていたが、最終年度の本年は76.7%まで伸びている。今後もより良い使用方法を模索していきながら更に満足度上昇をめざしたい。</p> <p>また、希望進路達成率は平成26年度が67%、導入後1年目が71%、2年目72%、そして本年度が73%と1年目の大幅な増加後も着実に増加している。</p> <p>難関私立大学合格数も毎年増加しており、本年度に関してはこの報告書作成地点では未発表の学校もあり、最終結果がまだ出ていないものの、前年度の51人から激増して65人。さらには公立大学にも2人合格している。</p> <p>これらの結果を見ても今回の事業が導入の効果、さらにはそれに伴う教員の授業への取り組み姿勢に効果があったと言える。今後はこれらの機器をさらに活用してさらなる良い授業について考えていきたい。</p>